

中學
校用
香川習字帖
松石書
下

K220.72
29a
3

K220.72

29a

3

中學
校用

香川習字帖

古陵松柏吼天飈
山寺尋春夕寂寥

眉雪老僧時輟帚
落花深處說南朝

絕境讀仙書
寒泉山幾重

蹙然若有人
歸鹿踏秋葉

去年今夜侍清涼
秋思詩篇獨斷腸

恩賜御衣今在此
捧持每日拜餘香

紀律ヲ重ンジ師長ヲ敬ヒ
生徒ノ本分ヲ忘ルベカラズ

運動ヲ務メ飲食ヲ節シ
常ニ清潔ヲ旨トスベシ

宜上下一心忠實服業
勤儉治產惟信惟義醇

厚成俗去華就實荒怠
相誠自彊不息

平重盛資性忠格沈毅有度量
嘗啓事中宮有蛇至膝下恐其

驚中宮徐捉其首尾以袖蔽之
召源仲綱授之宮中終無知者

徵集猶豫願

私儀本年徵兵適齡ニシテ徵集セラルベキ者ニ有之候處目下何府縣立何中學校在學中ニ付徵集御猶豫被成下度別

紙在學證明書相添へ此段願上候也

住所

年月日

氏

名

何聯隊區司令官官氏名殿

拜啓寸楮お呈手紙
にて申上候 甫啓

前略清免 尚文古仁
如 下 され たる 候

高書芳翰兮墨披
閱并讀敬復恭誦

春暖春暄花寒の
杉柄桜花乃部等

薄暑新綠梅雨炎威
赫灼殊暑秋冷金風

蒲毅微寒簷聲無音
炎兒迂生高堂拙宅

愈益清福勇健多祥
安嘉孝友能壽消光

安意省慮休神依賴
傳之承志萬謝厚禮

先刻過叙只今來訪
貴臨余上歸館照念

題等親切遺憾紹介
面念缺禮希望舊學

本懷之至委細面晤
不敢得貴之意

家皇不備拜後追伸
親展貴砂平佇直披

目外一寸巾上置小更の
研究會乃儀之付書面議
仕りたとい旨勝手ながら

今夕五時頃より拙宅へ
在極下され度候上
等々之

新年の清度目出度中納言
先ん以貴方御承多御吉迎新
被成を御承上御隨て 榮屋

一月無異加年仕立習作様吉安
意一の被下御承上御隨て 榮屋
吉祝詞と如新に御承上

鐘將東海水，濯出玉英膏。
燭地三州盡，掃天八葉香。

雨之靈名蒸大林，蔽日月，避中山峯。
獨立系無說，自為眾嶽宗。

前略上壁公園の繪畫展覧會も
やうやく富貴に富みて評點も附き
よし鑑賞を明日須最もよろしからむ
と友人より通書これあり

此等又未だなきくはるの自畫同作
類をもまじくや右法何の中
月日
松尾鶴雄様
田中早苗

心路の流は流すに非ざるや
おし雨をせしむるは
すむるは

身成り勉めを急ぐが故に
おし雨をせしむるは
すむるは

垣根乃川平急をよむま
軒端は山に急をあそぶ
今更なる言はくは
もくぬちをあまのり

峰より心らへ花乃まゆ
岸にそ接川を答のたけ
空をせぬたをめ山深く
らまのたむ水あをし

月下憶良

まをさるるをふらふをさしよつてはは世よ
きつはるる人のかゝるるをさしよつては

磯月
あゝ磯乃山名よんをさしよつてはは世よ
きつはるる人のかゝるるをさしよつては

